

## 「専門家・NPO/NGOの関わりとマンション復興」

神戸まちづくり研究所理事・事務局長 野崎隆一

### ＜沸騰する議論・市民活動の増埒＞ 資料1

'95~'97 1202回のシンポジウム（神戸新聞～展示会、音楽会、決起集会を除く）  
内訳：まちづくり210件、くらし168件、保健・医療113件、科学・技術102件

### ＜専門家の支援＞ 資料2

- 関西建築家ボランティア
  - ・建物相談（メンタルケア）
  - ・魚崎地区支援（復興シンポジウム、酒蔵プロジェクト、共同再建）
- 神戸復興塾
  - ・語り部キャラバン～被災地外への発信
  - ・研究会・研修受け入れ
  - ・政策提言（復興住宅入居支援、NPO行政協働会議）
- 市民まちづくり支援ネットワーク
  - ・被災地支援連絡会
  - ・復興情報誌「きんもくせい」
  - ・白地地域支援連絡会
- まちづくり支援機構
  - ・ワンストップ相談会
  - ・復興プロジェクト支援
  - ・支援機構の全国展開

### ＜NPO/NGO＞ 資料3

- 市民とNGOの国際防災フォーラム「市民がつくる復興計画（'97.1）」
- 公的支援オリンピックの会（'98.5～'00.12）
- 市民社会推進機構「市民社会をつくる～震後KOBE発アクションプラン（'01）」  
「阪神・淡路10周年～市民社会への発信（'05.1）」
- ひょうご市民活動協議会（HYOGON）'98準備会、'02発足

### ＜マンション復興＞ 資料4

- 再建の手法
- 合意形成
- 残された課題

## 資料

## 阪神・淡路大震災関連シンポジウム等の記録〈3〉

—神戸新聞紙面に掲載された催し一覧（1997年分）

本誌9号、10号に引き続き、神戸新聞紙面で報道した阪神・淡路大震災関連シンポジウム等のリスト「1997年分（1～12月）」をまとめた。

収録した催しは、復興への提言や防災対策、危機管理など、震災体験にかかわるシンポジウムやフォーラムを中心に、体験交流や討論会、講演会など“トークイベント”に焦点を置き、これまでと同様、単なる展示会や音楽会、映画会、決起集会的なイベントは割愛した。また、神戸新聞に掲載された記事（予告記事を含む）だけを対象にしたため、漏れている催しもあるほか、一部にはチェック漏れの可能性もあり、今後判明次第、補正していく必要があることを断っておきたい。

なお今号では、97年分の概況と合わせて、これまでに収録した3年間（95～97年）分について、どのような変化が見られるか、その推移を概観してみた。

## 1997年（97年1月～12月）分の概況

1997年の収録総件数は296件で、前年（460件）の64%にとどまった。

しかし、その一方で収録対象にこそならなかったものの、日本海の重油流出事故や神戸・須磨区の児童連続殺傷事件といった大規模な事故や重大事件の発生に伴う講演会や会合が相当数の頻度で見受けられた。これらの催しではボランティア活動の在り方、あるいは心のケアの問題、コミュニティーづくりの問題などが主なテーマとなっている。いずれも震災を機にクローズアップされた問題であり、その意味では震災体験の延長線上に位置付けることもできる。こうした点を考慮すると、97年分の収録件数の減少を“震災体験の風化”に短絡させるのは適切ではない。むしろ震災で提起された危機管理の諸問題が、その後発生した個別の事件や事故において、よりいっそう重要なテーマとして議論されるようになったとみるのが妥当だろう。

月別で見ると、前年と同様に震災2周年を迎えた1月が62件と圧倒的に多い(表1)。また2月28件、3月30件と、1月から年度末にかけて集中しているのは前年と同じ傾向だが、この年の特徴は、震災1000日目という節目を迎えた10月を中心に、もう一つのピークを示している点だ。10月は25件、さらに11月は32件と1月に次ぐ2番目の多さとなった。

催しのテーマ別分類では、生活支援や仮設住宅の孤独死などの問題をテーマにした「暮らし」が前年に引き続いて一番多く46件、全体の15.5%を占めた。2番目に多いのは、これも前年と同順位で「まちづくり」の43件、14.5%。以下、災害被災者等支援法案などの議論を含めた「行政・政治」の40件、ボランティア活動などを課題にした「市民活動」の32件、地震活動や防災対策などをテーマにした「科学・技術」の31件などがつづいた。

このうちで目立ったのは「行政・政治」の多さ。各テーマとも前年を下回った中で、唯一、前年の32件を上回った。一つには災害被災者の公的支援法の立法化をめぐる国会の動きを背景に活発に開かれた講演会や会合を、政治課題として「行政・政治」の分野に分類した事情による。

また、同様の観点から神戸空港問題に関する議論を「行政・政治」に分類したが、このことは半面で「環境」テーマの総件数が3件と極端に少なくな

〈表1〉  
月別件数 分野別・主催者別のシンポジウム等の内訳 (1997年分)  
(97年) ( )内は%

月	件数		分野	行政関係	民間団体	学術団体	その他団体	計
1月	62	1	科学・技術	15(48.4)	3(9.7)	11(35.5)	2(6.5)	31(100)
2月	28	2	行政・政治	9(22.5)	5(12.5)	1(2.5)	25(62.5)	40(100)
3月	30	3	まちづくり	9(20.9)	1(2.3)	3(7.0)	30(69.8)	43(100)
4月	17	4	産業・労働	3(16.7)	10(55.6)	3(16.7)	2(11.1)	18(100)
5月	22	5	保健・医療	3(12.0)	5(20.2)	7(28.0)	10(40.0)	25(100)
6月	19	6	福祉	1(9.1)	2(18.2)	0(0.0)	8(72.7)	11(100)
7月	17	7	市民活動	8(25.0)	5(15.6)	0(0.0)	19(59.4)	32(100)
8月	12	8	環境	0(0.0)	0(0.0)	1(33.3)	2(66.7)	3(100)
9月	15	9	文化・教育	3(13.0)	4(17.4)	10(43.5)	6(26.1)	23(100)
10月	25	10	暮らし	7(15.2)	3(6.5)	3(6.5)	33(71.7)	46(100)
11月	32	11	その他	6(25.0)	4(16.7)	8(33.3)	6(25.0)	24(100)
12月	17		計	64(21.6)	42(14.2)	47(15.9)	143(48.3)	296(100)
計	296							

る要因ともなった。

主催者団体別では、NGOやNPOなどの市民団体やボランティアグループ、被災者団体、社会福祉協議会など地域団体を含めた「その他団体」が、143件、48.3%と、前年に引き続いて全体のほぼ半数を占めた。これらの団体による催しでは、仮設住宅入居者の実態報告や市外・県外避難者の交流会といった生活支援にかかわる問題、まちづくりの取り組み状況の検証、震災空き地への対策、コミュニティーづくりなど「まちづくり」への取り組みの多さが目立つ。

次に多いのは「行政関係」の64件（21.6%）。このうち「科学・技術」をテーマにした会合が最多の15件となっているが、これらは防災都市づくりを目指したシンポジウムなどが中心で、国際的な大がかりな会議も開かれている。

以下、大学や学会、教育機関の「学術団体」が47件（15.9%）、経済・産業団体や企業、労働団体などの「民間団体」が42件（14.2%）となっているが、「学術団体」では野島断層のボーリング調査の報告会など地震活動に関する研究の発表や、関連学会ごとの災害対策についての研究、検討会などが目立つ。また、「民間団体」では産業の復興や雇用の創造など「産業・労働」をテーマにしたフォーラムや講演会が最多の10件を数えた。

### 3 年間（1995～1997年）の推移

阪神大震災が起きた1995年から97年までの3年間で収録した震災関連シンポジウム等のリストの総数は1202件となった〈表2〉。内訳は95年（2～12月）が446件、96年が460件、97年が296件である。95、96年はほぼ同件数だったが、97年が大きく減っているのは、先に述べた事情も考慮すると、これだけで震災関連シンポ等が激減したという見方はとれない。

これをテーマ別にまとめたのが〈表3〉

〈表2〉 3年間の月別件数推移  
(1995～1997年) (件)

	95年	96年	97年	3年間計
1月	0	103	62	165
2月	12	51	28	91
3月	22	41	30	93
4月	34	33	17	84
5月	50	26	22	98
6月	59	23	19	101
7月	50	40	17	107
8月	32	14	12	58
9月	43	39	15	97
10月	58	29	25	112
11月	57	40	32	129
12月	29	21	17	67
計	446	460	296	1202

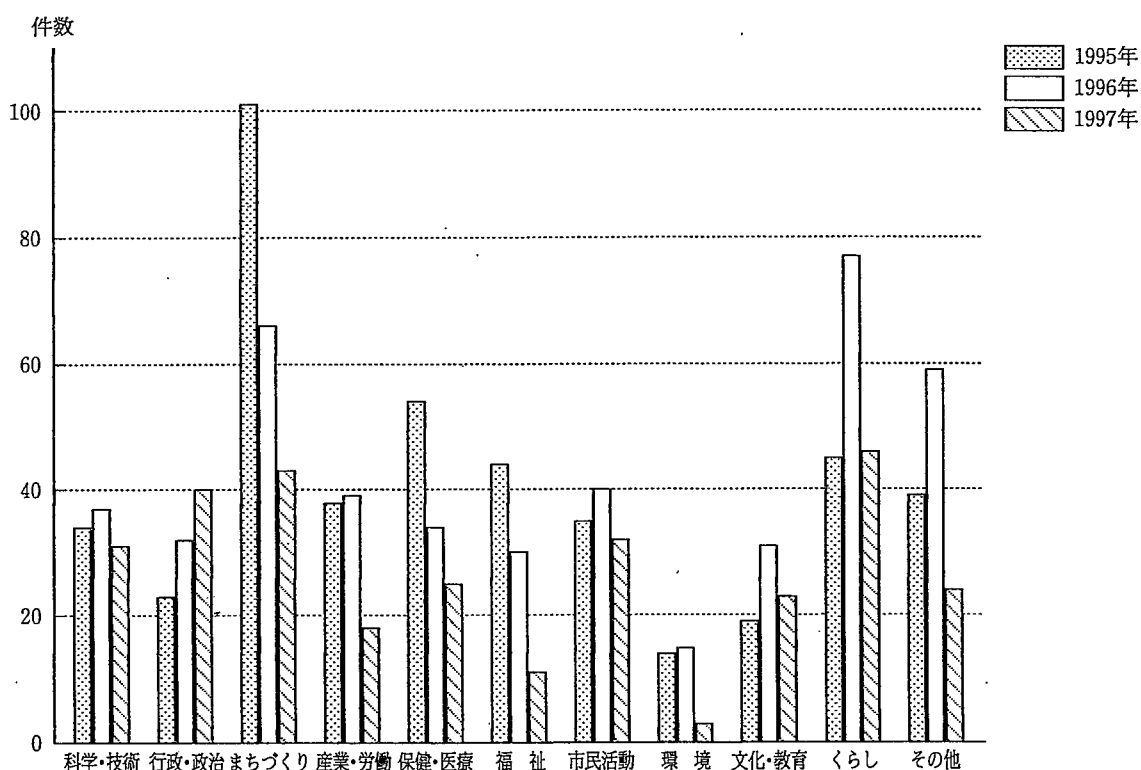
で、3年間のトータルで最も多かったのは「まちづくり」の210件。未曾有の被害を受け地域が崩壊状態になった初年度に101件が集中、95年単年度の分野別でも際だった多さとなった。その後、96年が66件、97年が43件と表面的には著しい減少傾向を示している。しかし、収録されたシンポ等の内容を見

てみると、震災当初、長田区や神戸東部地域で定期的に行われていたまちづくり懇談会など個別地域の討論会が記事から激減しているのが目につく。この収録作業は神戸新聞の掲載記事をもとに行っているため、紙面報道の性格上、定期的、あるいは恒常化した会合や催しは概して記事になりにくい。現在も各地域で毎週、定期的にまちづくりの会合を開いていると

〈表3〉 分野別件数の3年間の推移 (件)

	1995年	1996年	1997年	3年計 (%)
科学・技術	34	37	31	102 (8.5)
行政・政治	23	32	40	95 (7.9)
まちづくり	101	66	43	210 (17.5)
産業・労働	38	39	18	95 (7.9)
保健・医療	54	34	25	113 (9.4)
福祉	44	30	11	85 (7.1)
市民活動	35	40	32	107 (8.9)
環境	14	15	3	32 (2.7)
文化・教育	19	31	23	73 (6.1)
暮らし	45	77	46	168 (14.0)
その他	39	59	24	122 (10.1)
合計	446	460	296	1202(100.0)

分野別件数の3年間の推移



ころも少なくないことなどを考えると、こうした数字の変化は、新聞記事をもとにした収録方法が多分に影響していると思われる。

3年間の分野別で2番目に多かったのは生活支援や仮設入居者の問題などにかかわる「暮らし」で、168件。初年度をのぞくと、96年、97年とも分野別で1番の多さとなった。都市機能などで一定の復興がなされている中で、依然として生活再建が遅れていることを反映しているといえるだろう。

次に多いのは、復興にかかわる総合的なシンポジウムや複数のテーマにまたがる催しなどの「その他」に分類したもので、122件。以下、心のケアや災害時の緊急医療の在り方など問題にした「保健・医療」113件、ボランティア活動の在り方などが中心課題として議論された「市民活動」107件、「科学・技術」102件などの順となった。

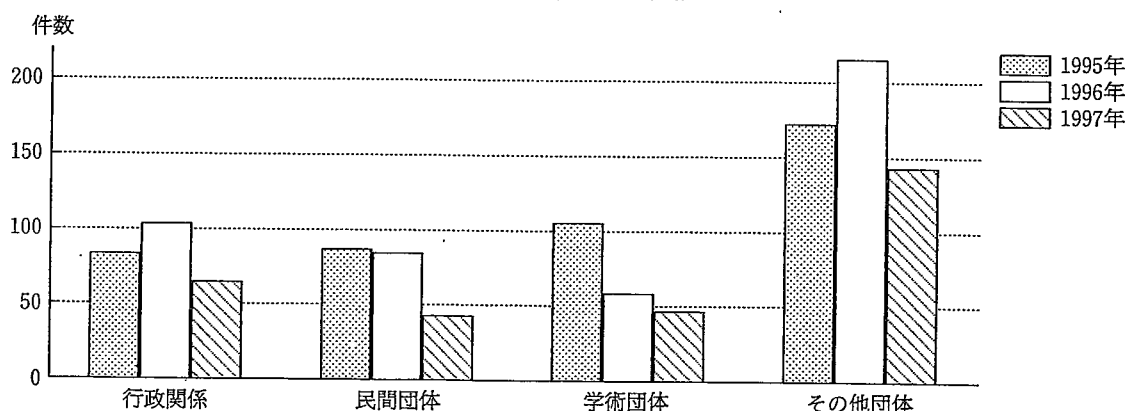
「行政・政治」は、これらに続いて7番目の多さとなっているが、経年変化を見ると、年を追って増加傾向を示している。これは前にも触れたように、生活再建が立ち遅れている中で、公的支援法などの政治課題が未解決になっている状況が大きな要因となっている。

一方、主催団体別〈表4〉では、NGOやNPOなどの市民団体やボランティアグループ、地域団体などを含めた「その他団体」が圧倒的に多

〈表4〉 主催者別件数の3年間の推移 (件)

	1995年	1996年	1997年	3年計 (%)
行政関係	83	103	64	250 (20.8)
民間団体	86	84	42	212 (17.6)
学術団体	105	58	47	210 (17.5)
その他団体	172	215	143	530 (44.1)
合計	446	460	296	1202(100.0)

主催者別件数の3年間の推移



く、530件、全体の44.1%を占めた。これらの団体の活動は生活支援やまちづくりを中心に、福祉や保健・医療など各分野で大きな比重を占めており、震災復興で果たしている役割は極めて高いといえる。

次に多かったのは、行政関係で250件。民間団体、学術団体は、それぞれ212件、210件と、ほぼ同数となった。

阪神・淡路大震災関連シンポジウム等のリスト (1995年分)

- <2月>
- 8日 土木学会緊急報告会 A科学・技術 B学術団体  
土木学会主催/東京・日本都市センター  
橋脚など構造物の耐震設計。家村浩和、町田篤彦
- 18日 フォーラム「みんなでできりひらこう震災復興」 Aその他 B学術団体  
兵庫県労働運動総合研究所・日本科学者会議兵庫支部主催/神戸海員会館  
まちづくり・医療・労働の課題。菊本義治
- 18日 日本第四紀学会報告会 A科学・技術 B学術団体  
日本第四紀学会主催/東京  
活断層研究。前田保夫、宮田隆生、青本格、嶋本利彦
- 18日 第1回外国人県民復興会議 A福祉 B行政関係  
兵庫県主催/神戸市内  
県在住の外国人県民らが復興への提言をまとめる。テーマ別分科会を順次開催。  
芹田健太郎
- 20日 消費者セミナー「震災とくらし」 Aくらし B行政関係  
兵庫県立神戸生活科学センター主催/神戸・県立神戸生活科学センター  
4回連続。20日「電気的安全点検」、22日「借地・借家」、24日「損害保険」、28日「分譲マンション再建」
- 21日 土質工学会報告会 A科学・技術 B学術団体  
土質工学会主催/大阪  
埋め立て地の液状化。柴田徹
- 23日 阪神大震災緊急シンポジウム A行政・政治 B学術団体  
立命館大政策科学部主催/京都・立命館大  
復興事業推進のポイント。宮本憲一
- 23日 保健医療福祉復興県民会議 Aまちづくり B行政関係  
兵庫県主催/神戸・県公館  
災害に強く弱者に配慮したまちづくりを計画。野尻武敏
- 24日 NPO(民間非営利組織)研究フォーラム A市民活動 B学術団体  
同フォーラム(会長・本間正明)事務局主催/大阪・サントリー文化財団会議室  
ボランティアに優遇制度を、民間非営利団体の法人化促進が必要。三島祥宏、山内直人、出口正之
- 25日 兵庫県南部地震被災者大集会 Aくらし Bその他団体  
兵庫県被災者連絡会主催/神戸市役所前  
避難所の環境改善を訴える
- 25日 研究会「なぜ神戸で大震災が起こったか」 A科学・技術 B学術団体  
兵庫物理サークル主催/神戸・鈴欄台高校  
活断層研究。青本格
- 25日 兵庫県南部地震調査報告特集 A科学・技術 B行政関係  
兵庫県立人と自然の博物館主催/三田・人と自然の博物館  
伏在断層の位置と断層運動様式
- <3月>
- 1日 討論集会「神戸からの報告」 A市民活動 Bその他団体  
阪神・淡路の復興を考える市民連絡会主催/神戸YMCA
- 4日 新しい家族と地域のネットワーキング会議 Aその他 B行政関係  
兵庫県主催/神戸・県立女性センター  
3回シリーズの第1回。医療、教育、法律、労働、都市計画などの専門家を委員とし、家族・地域の間関係づくりの好機ととらえ、具体的な提言をフェニックス計画に反映していく
- 9日 神戸の教育再生緊急提言会議 A文化・教育 B行政関係  
神戸市教育委員会主催/神戸市総合教育センター  
学校と避難所の併存、緊急時の連絡ネットワークの構築、受入れ可能な学校校舎の整備、防災教育のカリキュラム。座長水越敏行
- 10日 緊急シンポ「震災復興と私権制限」 Aまちづくり B学術団体  
日本土地法学会主催/大阪弁護士会館  
震災復興計画の策定に伴う土地所有権や借地・借家権などの私権制限の問題。篠塚昭次、早川和男
- 11日 新しい神戸をつくりだす市民会議 Aまちづくり Bその他団体  
同会議事務局主催/神戸・県私学会館  
「阪神大震災が提起したこと」早川和男
- 16日 震災後の心の復興「人間復興を目指すシンポジウム」 A保健・医療 Bその他団体  
神戸生命倫理研究会主催/神戸・県私学会館  
野田正彰、宮崎隆吉、加藤周一「震災後2ヶ月たった現在の被災地の現状と課題」
- 17日 ありがとうボランティアの集い A市民活動 Bその他団体  
兵庫県社会福祉協議会など主催/神戸・県庁中庭  
300人参加、行政との連携、ボランティア間の情報の共有、協力など活動の効率化に向けた提案
- 18日 ボランティア活動シンポ「被災者の健康を守るために」 A市民活動 Bその他団体  
同シンポジウム事務局主催/大阪・山陽学院ホール  
21日に第2回
- 18日 どないすんねん「ごみ」シンポジウム A環境 B民間団体  
近畿弁護士会連合会主催/大阪弁護士会館  
一般廃棄物の処理、アスベスト発生などの問題
- 19日 女たちの救援バザーイベント Aくらし Bその他団体  
ウィメンズセンター大阪主催/大阪・ウィメンズセンター大阪  
バザーの後、カウンセラーを交えて体験発表
- 19日 女たちで語ろう阪神大震災パート1 Aくらし B学術団体  
ウィメンズネット・こうべ主催/明石市立勤労福祉会館  
震災体験を女性が語るフリートーク
- 21日 阪神・淡路大震災と今後の都市づくり・地域づくりセミナー Aまちづくり B学術団体  
21世紀ひょうご創造協会主催/神戸・県私学会館  
県民の意見を反映させた地域づくりの提言。三木信一、角野幸博、前田昌俊、橋田光雄
- 22日 産業復興会議 A産業・労働 B行政関係  
兵庫県主催/神戸・県公館  
今後10年間の産業復興計画の中間報告案、復興博覧会の開催提案など。牧冬彦、関本忠弘ら経済人50人



- 22日 消費者セミナー「震災とくらし」パート2 Aくらし B行政関係  
兵庫県立神戸生活科学センター主催/神戸・県立神戸生活科学センター  
4日連続。22日「プレハブ木造住宅」、23日「悪徳商法・瓦」、24日「これからの住まい」、30日「自転車修理」
- 23日 ボランティア活動推進シンポ A市民活動 B民間団体  
大阪コミュニティ財団主催/大阪商工会議所  
樋口尚弘、中西茂、新崎国広、小路英男、本間正明
- 24日 神戸新聞情報文化懇話会 Aまちづくり B民間団体  
神戸新聞情報文化懇話会主催/神戸ハーバーランドニューオータニ  
「ひょうごづくりの新しい視点」新野幸次郎
- 25日 研究会「震災後の阪神一再生への視点」 Aまちづくり B学術団体  
武庫川女子大学生活美学研究所主催/西宮・武庫川学院甲子園会館  
都市再生へ提言、阪神間ルネッサンスの方法など。多田道太郎、河内厚郎ほか
- 26日 近畿緊急医学研究会 A保健・医療 B民間団体  
近畿緊急医学研究会主催/津名・しづかホール  
災害に強い情報網整備の必要性など提言
- 26日 みんなのフェスティバル第1回ぼちぼちいこや西宮 Aくらし Bその他団体  
ぼちぼちいこ会主催/西宮スポーツセンター  
ステージ演奏、まちづくりコーナー
- 27日 阪神大震災復興支援セミナー A産業・労働 B民間団体  
斉藤経営労務事務所主催/姫路商工会議所ホール  
「阪神大震災復興への道」浅井信雄、パネル「復興と姫路経済の課題」
- 30日 土木学会阪神大震災調査団第2次報告会 A科学・技術 B学術団体  
土木学会主催/川口市  
落合英俊、松尾稔
- 30日 被災した文化財の救出・修復活動 A文化・教育 B学術団体  
国立歴史民俗博物館主催/吹田・国立民族学博物館  
喜谷実宣、枝松亜子、坂本勇、今津節生
- <4月>
- 2日 新しい神戸をつくりだす市民会議第2回市民講座 Aまちづくり Bその他団体  
新しい神戸をつくりだす市民会議主催/神戸・県民会館  
まちづくり計画と住民の意見。「震災復興と都市計画」五十嵐敬喜。早川和男
- 5日 阪神大震災による歴史的建造物の被災調査報告会 A科学・技術 B学術団体  
日本建築学会主催/大阪科学技術センター  
「被災実態と修復・補強の課題」中村恒善
- 7日 阪神大震災NGOフォーラム A市民活動 B民間団体  
アジア医師連絡会(AMDA)、日本青年会議所主催/東京都  
国内の緊急救援網「72ネットワーク」の設立、AMDA院長会議の発足、アジア太平洋緊急救援ネットワーク
- 8日 日本医学会総会特別シンポ「阪神大震災に学ぶ」 A保健・医療 B民間団体  
日本医学会主催/名古屋市  
災害時の医療の課題。後藤武、塩見文俊、瀬尾撰
- 8日 男女共生のまちづくり県民フォーラム Aまちづくり B行政関係  
兵庫県立女性センター主催/神戸・県立女性センター  
林律子、川村美知子、岩堂美智子、清原桂子。2/22日阪神、同23日神戸、同27日

- 9日 明石、3/6日洲本で開いた地域フォーラムのまとめ  
第1回魚崎地区まちづくりシンポジウム Aまちづくり Bその他団体  
関西建築家ボランティア主催/神戸・魚崎小学校  
加藤晃規
- 10日 関西大震災緊急連続シンポジウム Aまちづくり B学術団体  
建築フォーラム主催/京都・学芸出版ホール  
10日「建築・崩壊するものの理由」西沢英和、中川理 同22日「木造建築に未来はあるか」坂本功、三沢康彦 5/9日「都市防災の現実と可能性」室崎益輝、小林正美 同16日「集合住宅再建」内田雄造、折田泰宏
- 10日 集い「神大生のボランティア活動・その現状・課題・ニーズ」 A市民活動 B学術団体  
神戸大学法学部主催/神戸大学  
学生のボランティア活動について
- 14日 シンポジウム「ちょっと待った阪神高速の復旧」 Aまちづくり Bその他団体  
道路公害住民運動の有志など主催/大阪・此花会館  
阪神高速道路の再建中止を求める議論。塩崎賢明、西川栄一ら
- 14日 連続講演会「生と性を考えるシリーズ」 A福祉 B行政関係  
兵庫県立女性センター主催/神戸・県立女性センター  
「いまを生きる一からだ・性・命」北沢杏子、「ともに生きる一ふれあいの中の心のケア 普賢岳噴火後の4年にとりくんで」荒木憲一
- 15日 講演会「子供の心理と災害一阪神大震災」 A保健・医療 Bその他団体  
精神衛生支援団体主催/神戸YMCA  
「災害後の子供への親・教師の接し方」医療コーディネーターのロバート・ペーカ  
ー博士
- 15日 関西設計者会議公開シンポジウム A科学・技術 B民間団体  
関西設計者会議事務局主催/大阪・備後町オークビル  
地震を考えた住まい一家づくりの常識を問い直す。橋英三郎
- 15日 震災後の生活一心の問題をめぐって A保健・医療 B行政関係  
神戸市西保健所主催/神戸・プレントゥーホール  
植本雅治
- 16日 シンポジウム「高齢社会に向けて一阪神大震災が明らかにしたもの」 A福祉 Bその他団体  
社会問題を考える会主催/尼崎市労働福祉会館
- 16日 阪神大震災と21世紀への提言 Aその他 Bその他団体  
21世紀へのパラダイムを創世する仲間たちの会主催/大阪・大正区民ホール  
ネムの木は地震を予知する。阪神大震災と神戸元氣村。植物から学ぶ宇宙の知恵
- 16日 ヒューマンネットワークせれいゆ例会 Aくらし Bその他団体  
せれいゆ主催/大阪・ドーンセンター  
震災についてのフリートーク
- 16日 フリートーク「阪神大震災を経験して」 A福祉 Bその他団体  
国際結婚を考える会・大阪主催/神戸学生青年センター  
在日外国人が震災体験を話し合う
- 18日 消費者セミナー出張講座「震災とくらし」 Aくらし B行政関係  
兵庫県立神戸生活科学センター主催/宝塚市消費生活センター  
18日「プレハブ住宅と木造住宅」、19日「悪徳商法・瓦」
- 19日 神戸新聞情報文化懇話会例会 A市民運動 B民間団体

- 神戸新聞情報文化懇話会主催／新神戸オリエンタルホテル  
「ボランティアズを考える—NGO連絡会議の現場から」草野賢一
- 21日 新しい神戸をつくりだす市民会議分科会 A その他 B その他団体  
新しい神戸をつくりだす市民会議主催／神戸・中央労働センターなど  
4分科会「福祉・女性」「都市計画と住宅、街づくり」「環境と開発」「市民参加と行政システム」。23日も
- 21日 わわわフェス・シンポジウム A まちづくり B その他団体  
神戸をほんまの文化都市にする会主催／神戸・シーガルホール  
「文化による新しいまちづくりを目指して」。衛紀生、二宮厚美、竹山清明。  
代表・平田康
- 21日 生活環境と大震災—これからのまちづくりに向けて A 環境 B その他団体  
神戸学生青年センター主催／神戸学生青年センター  
食料環境セミナー「生活環境と大震災」(全4回)。21日「食」保田茂、同28日「水」  
讃岐田訓、5/12日「大気」中地重晴、同18日「廃棄物」植村振作
- 22日 心の危機をどう支えるか？阪神大震災のケアを通して A 保健・医療 B 行政関係  
大阪市立婦人会館主催／大阪市立婦人会館  
西原由起子(ケアネットワーク顧問)
- 22日 アースデーひょうご・25周年の集い A まちづくり B その他団体  
アースデーひょうご95実行委員会主催／神戸・県私学会館  
「市民中心の都市運営への転換」菊本義治、パネルディスカッション「大震災と環境問題—市民がつくる人間尊重のまちづくり」木村良夫、西川栄一、中田作成、塩崎賢明、小沢秀造
- 22日 講演会「阪神・淡路大震災を語る—近畿地方の活断層」A 科学・技術 B 学術団体  
神戸親和女子大学主催／神戸親和女子大学  
「16年も前に県に報告、直下型いつ起きても不思議でない」三東哲夫
- 22日 活力ある人間・文化都市神戸復興をめざす研究会結成集会 A まちづくり B その他団体  
同研究会主催／神戸・県私学会館  
多分野の専門家がまちづくり復興案を提言。石川幹子、滝沢秀樹、金守良
- 22日 再就職セミナー A 産業・労働 B 行政関係  
兵庫県立女性センター主催／神戸・県立女性センター  
「震災後の雇用相談の現場から」一杉一子・兵庫婦人少年室長
- 23日 第1回ユイ・フォーラム A まちづくり B その他団体  
ウィメンズ・シンクタンク・ユイ主催／神戸・県民会館  
共に生きる、共に支えるまちづくりへの提言。石東直子、安達和美
- 23日 女たちで語ろう阪神大震災パート2 A 暮らし B その他団体  
ウィメンズネット・こうべ主催／神戸海員会館  
「自分たちで仕事をつくってしまおう」足立隆子
- 28日 ボランティア活動を考えるセミナー A 市民活動 B その他団体  
PHD協会主催／神戸・県民会館  
気負わず、気張らず国際協力。6月30日までの6回シリーズ
- 28日 島原・阪神災害シンポジウム「共に復興を考える」 A 暮らし B その他団体  
島原市民復興ネットワーク主催／島原市  
両被災地の共通の課題を探る。宮入興一、森崎輝行、福岡博孝
- 29日 フォーラム「若者ボランティアからの提言」 A 市民活動 B その他団体  
同フォーラム実行委主催／神戸学生青年センター

- 私たちは神戸で何をしたか、そしてこれから何をするか
- 29日 ビデオドック・オープンハウス A まちづくり B その他団体  
ビデオドック主催／宝塚・ビデオドック  
「女たちの震災」フリートーク
- 30日 震災復興を考える講演会 A その他 B 学術団体  
国際経済商学学生協会(アイセック)主催／神戸大学  
産業・コミュニティーの2分科会。加護野忠男、金田喜秀、新野幸次郎、島田誠
- <5月>
- 1日 講演会「被災分譲マンションの再建問題」 A 暮らし B 民間団体  
マンション再興モデル策定委員会主催／HDC神戸  
高田昇、丸山英気、北川善太郎
- 3日 第2回魚崎まちづくりシンポジウム A まちづくり B その他団体  
関西建築家ボランティア主催／神戸・魚崎小学校テント
- 5日 国際助産婦の日 in 神戸 A 保健・医療 B 民間団体  
同実行委主催／神戸・県学校厚生会館  
被災妊婦の支援と助産婦ネットワーク
- 6日 歴史と文化をいかす街づくりシンポジウム A まちづくり B その他団体  
歴史資料保全情報ネットワーク主催／尼崎市総合文化センター  
大震災で歴史文化遺産はどんな被害を受け、復興計画の中でどう位置付けられるべきか。藪田眞、高橋学ほか
- 7日 女たちで語ろう阪神大震災パート3・まちづくり編 A まちづくり B その他団体  
ウィメンズネット・こうべ主催／神戸海員会館  
神戸市議選出馬予定の女性らが女性の視点を生かしたまちづくりの必要性を訴える
- 7日 第9回町内会・自治会全国研究集会 A まちづくり B 学術団体  
東海自治体問題研究所主催／神戸大学瀧川記念学術交流会館  
震災・復興とコミュニティー。岩崎信彦、古市忠夫
- 9日 公開講座「ともに生きる—ふれあいの中の心のケア」 A 保健・医療 B 行政関係  
兵庫県立女性センター主催／神戸・県立女性センター  
「普賢岳噴火後の4年に取り組んで」荒木憲一
- 10日 伊丹市震災復興市民懇話会 A 行政・政治 B 行政関係  
同市民懇話会主催／伊丹市立総合教育センター  
防災機能を備えた阪急伊丹駅の復興、恒久住宅の整備、災害に強い街の構築、産業・文化の復興など(会長:小西新左衛門)
- 10日 阪神・淡路大震災と臨床検査シンポジウム A 保健・医療 B 民間団体  
兵庫県臨床衛生検査技師会主催／宝塚・ソリオホール  
震災直後から避難所や仮設診療所で医療活動に従事した技師たちの非常時の体験を今後にかため
- 10日 パネルディスカッション「シテ・ユニベルシテ」実現に向けて A その他 B 学術団体  
ひょうご創生研究会、神戸新聞社主催／西宮・武庫川学院甲子園会館  
大学街を復興の核に、兵庫版学生街の提言。小森星児、高坂健次、井野瀬久美恵、福井有、寺嶋英介
- 11日 長田の良さを生かした街づくり懇談会 A まちづくり B その他団体  
同街づくり懇談会主催／長田・ケミカルシューズ産業会館  
地域に密着した商業や観光業者からみた集客型商業について。発起人北野正一ほか

- 13日 シンポジウム「若者は！震災ボランティアを語る」 A市民活動 B行政関係  
宝塚市ボランティア活動センター主催/宝塚市立女性センター
- 13日 阪神文化創造会議・講演とシンポジウム A文化・教育 B学術団体  
学校法人阪急学園文化センター主催/西宮・武庫川学院甲子園会館  
「新しい時代へ」森毅、「再生に向けて」嶋本昭三、加藤晃規
- 13日 自治研シンポジウム「大震災と地方自治」 A行政・政治 B学術団体  
兵庫県自治体問題研究所主催/神戸・県民会館  
区画整理や医療体制など都市政策について。宮本憲一、岩見良太郎、上田耕蔵
- 13日 シンポジウム「やったことを記録に残すボランティア大集会」  
A市民活動 Bその他団体  
阪神大震災地元NGO救援連絡会議主催/神戸市外国語大学  
ボランティアの活動記録、震災・活動記録室。実吉威
- 15日 研究会「復興計画への提言ー福祉のまちづくりの視点から」  
Aまちづくり B行政関係  
兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所主催/神戸・県民会館
- 15日 講座「ボランティアと地域社会」 A市民活動 B行政関係  
大阪府立ドーンセンター主催/大阪・ドーンセンター  
震災被災者と共存するボランティア。金香百合。15～6/13の連続5回。
- 17日 日本精神神経学会特別シンポジウム A保健・医療 B学術団体  
日本精神神経学会主催/長崎市  
神戸市保健予防課の森井俊次主査、三重県・あすなろ学園の清水将之園長
- 17日 平和講演の夕べ「阪神大震災と明日の神戸」 Aその他 B民間団体  
神戸大学教職員組合主催/神戸大学農学部  
「阪神大震災と都市防災」室崎益輝、「阪神大震災と市民生活」岩崎信彦
- 17日 復興にみんなでモノ言うなだ集會 Aまちづくり Bその他団体  
新しい灘区をつくる市民会議主催/神戸・都賀川公園  
復興の主人公はあくまで市民との立場で、被災者や復興に汗を流す人たちが毎月15日に行動をおこす
- 17日 兵庫県南部地震・災害調査報告会 A科学・技術 B学術団体  
日本建築学会主催/大阪国際交流センター  
16日から全国9都市を巡回
- 17日 神戸新聞情報文化懇話会例会 A市民活動 B民間団体  
神戸新聞情報文化懇話会主催/神戸ハーバーランド・ニューオータニ  
「阪神復興と危機管理を考えるー官民非営利組織の役割分担」本間正明
- 18日 復興ボランティアフォーラム in Fukushima A市民活動 B学術団体  
福島大学行政社会学部主催/福島市  
ボランティアの体験発表
- 19日 日米被災障害者交流会 A福祉 Bその他団体  
被災地障害者センターなど主催/神戸・県教育会館  
障害者にとっての優しい街づくりはどうあるべきか。リチャード・スカップ
- 19日 シンポジウム「阪神文化の灯を消すな！」 Aまちづくり Bその他団体  
阪神文化復興委員会、宝塚市文化振興財団主催/宝塚・ペガホール  
震災で打撃を受けた「阪神間文化」の復興を。安藤忠雄、辻久子、植田紳爾、河内厚郎
- 20日 兵庫の川サミット A環境 Bその他団体  
市川流域アメニティ研究会主催/神崎町・エルデホール

- 人と水のかかわりをテーマに阪神大震災の体験発表も行われる。  
渡辺一二、福留脩文ほか
- 20日 鎮魂と復興・女たちの集い Aくらし Bその他団体  
ぐるーぷ「め」主催/神戸・北須磨文化センター
- 20日 連続講座「阪神大震災から学ぶ」PART 1 Aその他 B行政関係  
伊丹市立中央公民館主催/伊丹市立中央公民館  
「復興と人とところ」をテーマに全4回。20日「物質文明の過剰から解き放たれる瞬間」島京子、同27日「明日への確かな“道”をつくろう」西道実、6/3日映画「地球交響曲」上映、同10日「なぎたおされても蘇る人の心の『復興』」津村喬
- 20日 ワークショップ「災害とデザイン」 Aまちづくり B学術団体  
芸術工学会主催/神戸・芸術工学研究所  
震災を契機にデザインはどんな役割を果たしたのか、また何を果たすべきか。  
田中央、坂田岳彦、鈴木成文、田中直人
- 21日 みんなで考えよう地震と原発の危険な関係 A科学・技術 Bその他団体  
脱原発兵庫連絡会主催/神戸・県教育会館  
原発は地震に耐えられるか。荻野晃ほか
- 21日 公開討論会「震災後の復興体験」 A保健・医療 B学術団体  
甲南大学主催/神戸・甲南大学  
被災者の心の復興をテーマに。河合隼雄ほか
- 21日 シンポジウム「防災と環境創造による阪神地域の復興まちづくり」  
Aまちづくり B学術団体  
尼崎市・自治体問題研究所主催/尼崎市立総合文化センター  
環境重視のまちづくり、「震災復興関西環境NGOネットワーク」の結成へ。  
高田昇ほか
- 21日 第1回被災マンション再建セミナー Aくらし Bその他団体  
分譲マンション復旧・建て替え推進協議会（復建協95）主催/神戸・県民会館
- 21日 コミュニティ復興フォーラム Aまちづくり B行政関係  
兵庫県主催/西宮・深津小学校  
県民と共に復興計画を考える。21日午後・日生神戸駅前ビル、24日・淡路一宮町ふるさとセンターの3回の地域会議を経て、28日・県公館で全体会
- 21日 尼崎の朝鮮学校をささえる会結成集會 A福祉 Bその他団体  
朝鮮学校を阪神淡路大震災から復興させる会主催/尼崎朝鮮初中級学校グラウンド  
施設復旧費の助成などを訴える。
- 22日 シンポジウム「みんなで家を、街をつくろうよ」 Aまちづくり Bその他団体  
神戸元気村、丹波年輪の里主催/神戸・石屋川公園神戸元気村特設会場  
木造住宅の耐震性と頑丈な家づくり、復興、まちづくりについて
- 23日 シンポジウム「まちの復興に生かそう道路づくり」 Aまちづくり B学術団体  
ひょうご創生研究会・神戸新聞社主催/神戸・県私学会館  
震災復興の道路計画が対立点になっていることに関する討論。小谷通泰、安田丑作  
植田和弘、新田保次
- 24日 リレーフォーラム「まちづくりと議員の役割」 A行政・政治 Bその他団体  
街づくり支援協会主催/西宮・なるお文化ホール  
県議・市議の候補者に聞く。協会事務局・中西光子。26日まで神戸、芦屋でも
- 25日 特別講義「区画整理・市街地再開発の現段階と住民、議員」  
Aまちづくり B学術団体  
神戸大学法学研究科主催/神戸大学法学部

## 専門家による支援

### ■関西建築家ボランティア

#### □初期の活動

震災の7日後、大阪・京都・神戸・奈良で小規模な事務所を主宰するアトリエ建築家を中心に結成された。初期活動は、被災地全域を対象にした建築相談窓口を設けることであった。事務局を置く場所がなかったため、携帯電話を借り一週間交代で担当を決め相談受付をおこなった。マスメディアの協力もあり、活動と携帯番号が新聞テレビで紹介され相談が殺到した。毎週水曜日の夜に会議を招集し、受付担当者が相談依頼リストを配り、現地への派遣者を決定する。その上で次の会議で派遣結果の報告をおこなうということをはば3ヶ月継続して行った。

相談の大半は、外観上は大きな被害の見あたらない建物所有者からのもので、余震で壊れないか補修が可能か見て欲しいというメンタルケアに近いものだった。

#### □魚崎との関わり

2月に入り、神戸市東灘区の魚崎小学校避難所から要請をうけ地域への継続的支援を行うことになった。避難所の運営リーダー達と共に地区復興会議を設立し、まちづくりシンポジウムの開催を決め、11箇条からなる「まちづくり憲章」を起草した。4月のまちづくりシンポジウム後に実施した相談会では戸建て住宅の共同化や市場の再建プロジェクトがスタートした。

また、6月には避難所の地元運営リーダー達を中心に、まちづくりシンポジウムに参加した財産区議員、地元に住む大学研究者、行政職員らに関西建築家ボランティアのメンバーが加わった「魚崎地区まちづくり準備協議会」が発足した。

12月にはHAR基金の助成を受けて魚崎地区内に『魚崎まちづくりハウス』を設置することができ、以後、隔週毎のまちづくり準備協議会や共同化プロジェクトの会議などがここで開催された。しかし、地域の連合自治会が本来の活動を回復するにつれ、地元有志と外部専門家たちの試みは、組織の中核メンバーから認知されることはなかった。

その後、魚崎地区の一部で地域の自治会を巻き込んだ「まちづくり協議会」設立準備が整ったが、上部団体である連合自治会からの強い圧力により中断を余儀なくされた。その後、まちづくり準備協議会は活動を中断した。

### ■神戸復興塾（神戸まちづくり研究所）

#### □神戸復興塾～ことのはじまり

震災後の市民活動の爆発的な展開の後、時間的な流れのなかで活動の展開を再考する動きが出てきた。神戸復興塾もそのような中で生まれた。中心となったのは、震災体験を他都市に伝える活動をしていた「市民語り部キャラバン隊」である。震災とその後の復興過程での経験を他地域とも共有しなければならないとして、発信していくことの重要性で一致し、そこから「神戸復興塾」構想がもちあがった。

その後、「現場の知」を重視する同志的な専門家集団として、新しいアイデアを着想

